

## 第71回ITER機構職員募集説明会でのQ&A

### 1. 日時・場所

平成25年12月4日(水)～5日(木)

ウィンクあいち (第88回低温工学・超電導学会研究発表会 併設展示会会場)

### 2. 来訪者: 30名

### 3. 説明概要:

第88回低温工学・超電導学会研究発表会 併設展示会会場において、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明を行った。

(ITER計画管理グループ 齋藤)

### 4. 主なQ&A

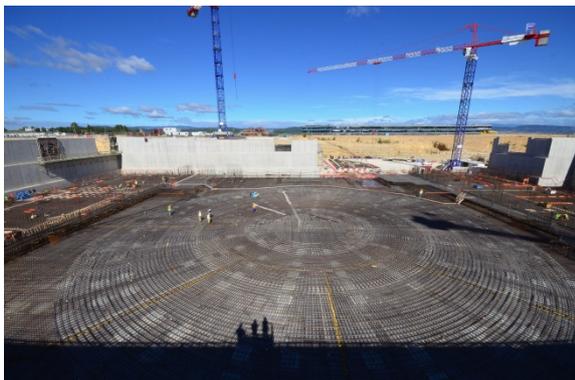
Q: 日本からITER 機構へは何人派遣されていますか？

A: ITER 機構の職員総数は 2013 年 11 月末現在で 514 人です。専門職員が 326 名、支援職員が 188 名です。日本からは 27 名の研究者・技術者が専門職員として ITER の建設活動に従事しています。支援職員は 6 名です。日本国籍の方の割合は、専門職員が 8.3%程度となっています。より多くの日本人が ITER 機構で働けるよう支援を行っております。

Q: ITER はいつ完成するのですか？また、現在どこまで建設が進んでいますか？

A: 2020年に最初のプラズマを点火することを目指して、装置建設が進んでいます。その後、重水素を使った運転を経て、2027年にトリチウムを用いた運転が開始される予定です。現時点で完成しているのは、PFコイル建屋と本部ビルです。トカマク建屋、組立建屋、クライオスタット組立建屋については現在建設中で、特にトカマク建屋については、基礎工事が完了しています。

(※写真参照)



トカマク複合建屋の基礎工事(2013年9月)

Q: 日本の機器の分担について教えてください。

A: 日本が分担する調達機器は、多岐にわたります。中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置、中性粒子加熱装置、計測装置などです。

Q: 超伝導コイルの製作はどこまで進んでいますか？

A: 導体については、TFコイル導体はほぼ製作が終了し、現在CSコイル導体の製作が行われています。また、コイルについては巻線、および構造物の試作が終了し、実機の製作が始まる

ところです。

Q: 超伝導コイルに使用している線材は何ですか？他の材料を使用する予定はありますか？

A: TF コイル、CS コイル共に  $\text{Nb}_3\text{Sn}$  を使用しています。日本の調達担当ではありませんが、PF コイルでは、 $\text{Ni}_3\text{Ti}$  が使用されています。

以上



第 88 回低温工学・超電導学会研究発表会 併設展示会会場の様子